

三暁（広島県福山市、早間寛将社長）が、鍛造の体験ツアーに力を入れている。本業は各種吊り具やワイヤロープの金員などの製造だが、2017年に経営者が高齢化した鍛造業者を事業承継した。一般客に鍛造の現場作業を体験させ、作った品物を持ち帰ってもらう。付加価値向上への取り組みは、モノづくりのあり方を考えるうえでも参考になりそうだ。

（福山支局長・清水信彦）

瀬戸内海航路の港町として江戸時代の姿を今に伝える福山市の鞆の浦。三暁の本社と引き継いだ鍛造工場はいずれも、美しい鞆の海が目の前に広がる鞆鉄鋼団地に立地する。鍛造工場では、土間

観光と相乗効果、ブランド確立へ

三暁

鞆の浦で鍛造体験



鍛造の体験ツアーでは、参加者自らハンマーを振るう

の床に年季の入った鍛振るう。作るのは鉄の造ハンマー3台とコトレーかお香立て（いクス炉、重油炉が並ぶ。多数のやつとこがみ5000円）、またぶら下がる棚や重厚な金敷きなど、工場の歴史と働く人の汗がにじみ出てくるようだ。体験ツアーは約2時間のコース。参加者はスタッフのサポートを受けて自らハンマーを

事業承継 伝統の技に光

鍛造体験単体でも自社で提供する。これまでに約20組を受け入れたが、およそ半分が女性だという。「案外、女性の方が興味を示す方が多い」と早間社長は話す。来夏には、鍛造工場に隣接した空き事務所を改修、物販や休憩ができるスペースとしてオープンさせる。「鞆の浦の観光客はコロナ禍でもあまり減っていないが、滞在時間が短いのが課題。観光との相乗効果を目指したい」（早間社長）。本社工場と一般客が入る鍛造工場は700メートル離れているが、動線は完全に分けることで顧客情報の漏えいを防ぐ狙いもあるという。同社が鍛造業者を事業承継した大きな理由は、金型を使わない自由鍛造でいかりを作る技術を持つていたこと。貴重な技術だが、いかりだけでは将来に事業を残すのは難しい。体験ツアー以外にも、鍛造材を使った家具と、アウトドア用品とを3本柱として事業の継続を目指している。工場とともに、鍛造一筋40年弱、当時52歳だったベテラン社員も移籍した。今ではさらに3人の若い社員が事業に関わり、技能の承継とビジネス展開を受け持つようになった。「日本のモノづくりが海外の安い製品に抗するには、高い値段でも売れるブランドが必要。そのためには、モノづくりにまつわるストーリーを見せようの一番」と早間社長は力説する。